

## 2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）事業報告

## I. 事業報告

## 概要

当財団は、自然科学の基礎研究を助成振興し、もって我が国の科学研究の向上発展と人類の福祉に寄与することを目的としている。この目的を達成するため、本年度も自然科学における多岐の分野にわたって、基礎研究課題に対する研究援助及び成果発表会の開催、研究者の海外派遣に対する援助、並びに国際学術集会の開催援助を実施した。

特にこれまでコロナ禍の影響で実施できなかった国際学術集会や研究交歓会の実施が可能となり、数年ぶりの対面開催が実現した。当該年度途中まで残っていたコロナ禍による影響、及び海外の情勢不安による急激な物価高騰の影響が続いた結果、数回にわたって延期されてきた長期間派遣援助者の辞退、及び一部の海外研究援助の延期が発生したが、長期間派遣者交歓会の他、評議員会、理事会、運営委員会及び選考委員会などの会議においては、適宜オンラインを取り入れることにより実施した。

本年度の研究助成事業は、昨年度と同様、4,000万円規模で実施したが、上記の通りその他の各事業における実施の延期やオンライン化により、公益目的事業の実績は予算を若干下回った。尚、2022年度の海外研究援助費と国際学術集会援助費の未執行分は、翌年度以降に執行する見通しである。

事業名	予算 (万円)	件数				実績 (万円)	摘 要
		募集	応募	採択	実施		
<b>研究援助</b>							
2022年度	4,000	18	85	21	21	4,050	左記の通り援助を実施 応募内訳：学会推薦77件、個人推薦8件
2023年度	—	18	116	—	—	—	応募内訳：学会推薦102件、個人推薦14件
<b>長期間派遣援助</b>							
2020年度	120	—	—	—	0	0	採択した7件のうち6件は2021年度までに実施済。コロナ禍で延期していた残り1件は辞退となった。
<b>海外研究援助</b>							
2021年度	300	—	—	—	2	300	採択した8件のうち6件は2021年度に実施済。コロナ禍で延期していた残り2件（区分A、B各1件）の援助を実施した。
2022年度	1,700	—	—	—	6	1,200	採択した9件のうち6件（いずれも区分B）の援助を実施した。残り2件（区分A、B各1件）は延期、1件（区分B）は辞退となった。
2023年度	—	8	105	16	—	—	採択内訳：区分A、B各8件（計16件）

[事業報告]

事業名	予算 (万円)	件数				実績 (万円)	摘要
		募集	応募	採択	実施		
国際学術集会							
2020年度	510	—	—	—	1	510	採択した3件のうち1件は2020年度に実施済。残り2件のうち1件について、採択金額の残りの援助を実施して開催された。残り1件は2023年度に延期となった。
2021年度	700	—	—	—	1	700	コロナ禍で1年延期となったが、採択金額の残りの援助を実施して開催された。
2022年度	700	—	—	—	1	700	採択金額の残りの援助を実施し、予定通り開催された。
2023年度	—	—	—	—	—	—	(2021年度に1件採択、2023年度開催予定)
2024年度	—	1	1	—	—	35	1件を採択した。採択金額800万円のうち、準備費用として一部の援助を実施した。
トップ・コンファレンス支援事業							
2021年度	—	—	—	—	—	50	コロナ禍の影響により2023年度に延期された。準備費用として理事会承認後、一部の援助を実施した。
山田研究会							
2022年度	100	1	0	0	0	0	コロナ禍の影響により中止となった。
2023年度	—	1	1	1	—	0	1件を採択した。(2023年度開催予定)
長期間派遣交歓会	10	—				2	6月にオンライン開催にて実施した。
研究交歓会	400	—				483	10月に東京でハイブリッド開催にて実施した。
その他の事業費	2,746	—				2,525	対面開催予定会議を一部オンラインに変更、Proceedings 冊子作成の一部繰越等
計	11,286	—				10,555	

1. 自然科学の基礎的、学際的研究に対する援助

1) 研究援助

研究援助事業は、自然科学の各分野（物理、化学、生物・医学等）における萌芽的、独創的基礎研究に対して研究費を援助するものである。2022年度は学会推薦と個人推薦を合わせて85件の応募があり、この中から選考委員会による審査により、21件が採択案として提出され、理事会の決議を経て総額4,050万円の研究費援助を実施した。（6. 援助事業実績一覧に採択・援助課題を記載）

また、10月29日（土）に研究交歓会について、今回初めての試みとして、対面とオンラインを併用したハイブリッド開催を実施した。第1部では、2020年度に研究援助を受けた19名の研究者から成果発表が行われ、財団関係者との活発な意見交換および質疑が行われた。さらに、第2部では財団関係者を代表して、当財団理事の原田明氏（大阪大学産業科学研究所 特任教授）による学術講演が行われた。

## 2. 科学の研究を行うための招聘・派遣、その他国際学術交流に対する援助

### 1) 長期間派遣援助

長期間派遣援助事業は、海外における学識交換を通じて学術の国際交流を促し、また共同研究によって相互に研究の学際的あるいは国際的な進展を図るため、長期間(6 ヶ月～1 年間)海外派遣するための渡航費、滞在費等の援助を行うものである。本事業の公募は2019 年度までで終了し、その実施がコロナ禍で一部延期となり2022 年度に1 名が実施予定であったが、本人の申し出により辞退となった。

長期間派遣交歓会については、6 月18 日(土)にオンラインで開催し、2016～2019 年度に長期間派遣を受けた研究者のうち6 名の成果発表が行われ、財団関係者との活発な質疑応答と意見交換が行われた。

### 2) 海外研究援助

海外研究援助事業は、若手・中堅研究者が海外の大学や研究機関等に一定期間(1 か月～1 年間)滞在して共同研究を実施するために必要な経費を助成し、これによって新しい研究の方向性を見出した研究者とその研究に興味を持つ海外研究機関等との国際交流を活発化することを目的とし、従来の長期間派遣援助事業を改定して、2020 年度より公募を開始した事業である。本事業では、従来の個人の海外研究だけではなく、グループで行う共同研究も援助の対象とし、援助金額100 万円を区分A、同200 万円を区分Bとした申請区分で公募を実施した。

2022 年度に実施した援助は、2020 年度に採択された8 件のうちコロナ禍の影響により延期された2 件(区分A、B 各1 件、計300 万円)、及び2021 年度に採択された9 件のうち7 件(いずれも区分B、計1,400 万円)となった。尚、残り2 件(区分A、B 各1 件)については、海外情勢等の影響により延期となった。

また、新たに2023 年度実施予定分として応募があった105 件の中から、選考委員会による審査により16 件(区分A、B 各8 件、計2,400 万円)が採択案として提出され、理事会の決議を経て原案通り採択決定した。(6. 援助事業実績一覧に採択・援助課題を記載)

## 3. 自然科学に関する学術集会の開催援助および開催

### 1) 山田コンファレンス及び山田シンポジウム

「山田コンファレンス」は、自然科学の基礎的分野をテーマとする国際学術集会であり、特定の研究領域において最先端の研究を実施している研究者による高いレベルの討論を行うことを目的としている。

2022 年度は、当初4 件の実施予定であったが、3 件の実施と1 件の延期となった。以下、詳細について説明する。

第73 回山田コンファレンス「金属錯体を用いた分子スピントロニクス国際会議」(主催責任者：東北大学・山下正廣教授)は、当初予定通り、採択金額800 万円の残り700 万円の援助を実施し、10 月8～11 日に東北大学(仙台市)で開催された。開催終了後、決算報告及びProceedings(データ)が提出された。

## [事業報告]

第 74 回山田コンファレンス「Wnt 会議 2022」（主催責任者：大阪大学・菊池章教授）は、2020 年度の開催予定がコロナ禍により延期となったが、2022 年度に、採択金額 600 万円の残り 510 万円の援助を実施し、11 月 15～19 日に淡路夢舞台国際会議場（兵庫県淡路島）で開催され、開催終了後、決算報告及び Proceedings（データ）が提出された。

第 75 回山田コンファレンス「動物における左右非対称の起源」（主催責任者：理化学研究所・濱田博司チームリーダー）についても、当初 2021 年度の開催予定がコロナ禍により延期となったが、2022 年度に、採択金額 800 万円の残り 700 万円の援助を実施し、1 月 24～27 日に理化学研究所（神戸市）で開催された（決算報告及び Proceedings データの提出は次年度に行われる見込み）。

一方、第 76 回山田コンファレンス「第 9 回ニトロキシドラジカルに関する国際会議」（主催責任者：慶応義塾大学・吉岡直樹教授）については、当初 2021 年度の開催予定がコロナ禍によって延期となり、2022 年度にオンライン開催が予定され、理事会で採択金額 100 万円を 50 万円に変更して継続援助することが承認された。しかし、その後、大会責任者より、2023 年度に延期して対面開催することについて相談があり、理事会で当初の採択金額 100 万円に戻し、継続して援助することが承認された。

「山田シンポジウム」は、現在最先端の研究を実施している研究者によるチュートリアルな講演と、それを巡る講演者と次世代研究者との対話・討論を主とし、これによって当該分野の新しい発展を担う新進気鋭の若手研究者を育てる事を目的としている。2022 年度は、2024 年度に開催が計画される国際会議について 1 件の応募があったが、選考委員会による審査の結果、第 7 回山田シンポジウムとして「第 7 回国際ポリアミン会議」（主催責任者：関西学院大学・藤原伸介教授）が採択案として提出され、理事会により 800 万円の援助を実施することを決定した。また、2022 年度に当該国際学術集会の準備費用として、理事会承認後、採択金額のうち、35.3 万円の援助を実施した。

### 2) トップ・コンファレンス支援

「トップ・コンファレンス支援」は、日本国内における基礎科学分野の大規模国際学術集会の招致・開催を援助するもので、財団設立 45 周年を迎える 2022 年に記念事業として試験的に実施する事業である。当該事業として、2020 年度の理事会で「第 28 回統計物理学国際会議」（申請者・国内組織委員長：お茶の水大学・出口哲生教授）が採択され、本国際会議の開催に必要な経費の一部として 500 万円を援助することを決定し、2021 年度に準備費用として 300 万円の援助を実施した。当初は 2022 年度に開催予定であったが、コロナ禍の影響を考慮して 2023 年度に延期され、2022 年度は、その準備費用として、50 万円の援助を実施した。

### 3) 山田研究会

基礎科学研究者の自由な発想の交換と相互啓発を促進する「山田研究会」を、例年どおり、1 件につき推薦募集・実施する予定であったが、本研究会は、比較的小人数規模での

## [事業報告]

対面会議形式で行うことから、まだ残っているコロナ感染リスク等に対する安全管理上、2022年度実施分として積極的な推薦は得られず、推薦・選考を見合わせることにした。2023年度実施分については、1件の推薦があり、選考委員会による審査の結果、「宇宙における降着現象～活動性・多様性の源～」(主催責任者：尾道市立大学・川口俊宏教授)が採択案として提出され、理事会により140万円の援助を実施することを決定した。

### 4. その他

#### 1) 財団ニュース

当財団の広報紙である財団ニュースを2回発行し、当財団関係者、研究援助や長期間派遣援助の受領者、山田コンファレンスや山田研究会の関係者に配布、広報活動の一環とした。

#### 2) 事業報告書

第45回事業報告書(2021年度)を発行し、当財団関係者、大学・研究機関、推薦依頼学会、図書館、関係省庁、民間助成財団等へ寄贈した。

### 5. 留意事項

#### 1) 国際情勢不安及び新型コロナウイルス感染症等による影響について

2022年度は、新型コロナウイルスの変異株による感染もようやく落ち着きを見せ始めたことにより、研究交歓会・講演会をはじめ、これまで延期されてきた国際学術集会について、数年ぶりの開催を実現することができた。しかしながら、国際情勢不安による物価高騰や渡航への支障、及びコロナ禍の影響もまだ残っていたため、海外研究援助や国際学術集会の一部延期など、当財団の事業活動においても、一部に影響があった。2023年度においてもまだ予断を許さないことから、本財団の主要な事業である国際学術集会援助や海外研究援助などの国際交流を伴う事業等において、何らかの制限を余儀なくされることも懸念される。このため、今後も、これらの事業については、採択者・参加者の状況に応じて、柔軟な援助・開催が行えるように努める。

6. 援助事業実績一覧

1) 2022 年度研究援助実施一覧表

	申請者氏名	所属	研究主題	推薦者	援助額 (万円)
1	郡 英輝	大阪大学核物理研究センター	動的核偏極法による HD 標的開発と新しい 5 個のクォークから成る粒子探索	日本物理学会	200
2	ヒルシュベルガー マクシミリアン	東京大学工学部物理工学科	らせん磁性体におけるネマティック電子状態の探索	日本物理学会	200
3	山田 鉄兵	東京大学大学院理学系研究科	酸化還元により生じる相転移の創成とエネルギーデバイスへの展開	分子科学会	200
4	加藤 景子	名古屋大学大学院理学研究科	アト秒時間分解計測による電子・格子相互作用の研究	分子科学会	200
5	森本 裕也	理化学研究所光量子工学研究センター	テラヘルツ光を用いた超短電子ビームの単色化	原子衝突学会	200
6	奥村 文彦	福岡女子大学国際文理学部	ISG15 修飾による選択的タンパク質翻訳抑制と発熱制御	日本栄養・食糧学会	150
7	淡川 孝義	東京大学大学院薬学系研究科	補酵素 NAD を基質とする新規生合成酵素の機能解明と応用	日本薬学会	200
8	生長 幸之助	産業技術総合研究所材料・化学領域	新規環状アミノ酸の Late-Stage 構築法の開発とペプチド配座への影響	日本薬学会	200
9	鈴木 団	大阪大学蛋白質研究所	人工細胞による細胞構成要素のマイクロ熱パラメータの直接計測	日本生物物理学会	200
10	桐谷 乃輔	東京大学大学院総合文化研究科	電子機能の自発形成に向けた物質学理開拓	応用物理学会	200
11	春田 伸	東京都立大学大学院理学研究科	新規嫌氣的アンモニア酸化微生物の発見とその反応機構の解明	日本農芸化学会	200
12	稲田 のりこ	大阪公立大学農学部	植物細胞核内アクチン繊維の解析	日本植物学会	200
13	勝山 成美	京都大学ヒト行動進化研究センター	逆向現象 (postdiction) の基盤となる神経メカニズムの解明	日本神経科学学会	150
14	高井 正成	京都大学総合博物館	ミャンマーの巨大ホミノイド化石が示すアジア産類人猿の進化史	日本進化学会	150
15	王 丹	理化学研究所生命機能科学研究センター	思春期における環境感受性機構の多角的理解-脳における RNA 制御の解明	日本神経化学会	200
16	深町 昌司	日本女子大学理学部	ラムサール条約登録湿地に生息する野生メダカの生態調査	日本動物学会	200
17	加納 靖之	東京大学地震研究所	過去 400 年の京都の地震活動は不変か? 上賀茂神社の記録に基づく解析	日本地震学会	200
18	川崎 教行	北海道大学大学院理学研究院	初期太陽系における微惑星の形成年代の推定	日本地球化学会	200
19	末次 憲之	東京大学大学院総合文化研究科	葉緑体運動における光受容体フォトトロピンによるリン酸化ネットワークの解明	個人推薦	200
20	藤田 恭子	東京薬科大学薬学部	イオン液体を用いた水分子の制御と生体分子溶媒としての展開	個人推薦	200
21	浦口 大輔	北海道大学触媒科学研究所	安定ラジカル種を与えるポロニウム塩の創製と触媒機能創出	個人推薦	200

援助総額：4,050 万円

[事業報告]

2) 2022年度研究交歓会(2022年10月29日(土)ハイブリッド開催)発表者一覧

第1部 成果発表会

主題	発表者
新規イオンチャンネル型ロドプシン ChRmine の構造機能解析と光遺伝学ツール開発	東京大学大学院総合文化研究科先進科学研究機構 加藤 英明
連続反応を駆使した含ヘテロ原子非平面 $\pi$ 共役系多環式化合物群の合成と評価	早稲田大学先進理工学部化学・生命化学科 柴田 高範
細胞ターンオーバーを介した発生時間軸補正とその分子機構の解明	名古屋大学大学院理学研究科 大澤 志津江
直鎖状二本鎖 DNA を発現する遺伝子の機能	理化学研究所バイオリソース研究センター 飯田 哲史
カイラル構造相転移物質における電子物性の量子ビーム散乱研究	茨城大学フロンティア応用原子科学研究センター 岩佐 和晃
高速原子間力顕微鏡を用いたタンパク質膜透過のリアルタイム動的探査	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス領域 塚崎 智也
出芽酵母で見出した全く新しいタイプの染色体 DNA 複製起点の解析	高知工科大学環境理工学群 田中 誠司
新奇炭素系ネットワーク物質の高圧合成による高温超伝導探索	茨城大学大学院理工学研究科 中野 岳仁
脂質と膜タンパク質の相互作用解析法の開発とその応用	九州大学大学院理学研究院化学部門 松森 信明
インフラマソームを介した感染症の悪化とその応用	旭川医科大学医学部微生物学講座 原 英樹
多波長にわたる大望遠鏡群を駆使した巨大ブラックホールが宇宙の歴史に果たした役割の解明	尾道市立大学経済情報学部 川口 俊宏
高弾性タンパク質レシリンをモチーフとした強靱なヒドロゲルの創製	富山県立大学工学部 小山 靖人
X線観測を用いた新手法による低エネルギー宇宙線の探査と起源の解明	近畿大学理工学部理学科 信川 久美子
触媒的複素環交換反応による多様な非対称ビス複素環化合物の合成と生物活性	九州大学大学院農学研究院 有澤 美枝子
光によるシナプス機能マッピング技術の開発	三重大学大学院医学系研究科 竹本 研
植物の性と性染色体の成立に関わるゲノム進化	岡山大学大学院環境生命科学研究科 赤木 剛士
ニュートリノはマヨラナ性をもっているか	量子科学技術研究開発機構次世代放射光施設整備開発センター 小原 脩平
炭素-酸素結合活性化を基軸とする触媒的脱酸素カップリングシステムの開発	大阪公立大学大学院理学研究科 森内 敏之
小笠原諸島固有絶対寄生植物シマウツボ(ハマウツボ科)の宿主転換	京都大学大学院理学研究科 高山 浩司

[事業報告]

第2部 講演会

演題	講演者
「超分子ポリマーの科学」	大阪大学産業科学研究所 特任教授（常勤） 原田 明氏（当財団理事）

3) 2021年度海外研究援助者

援助実施課題

・区分A（各100万円）

代表研究者	個人/ グループ	研究主題	滞在先
京都大学霊長類研究所 今井 啓雄	グループ	スラウェシマカクの種分化と適応に関する遺 伝子レベルの研究	ボゴール農科大学 （インドネシア）

区分A 100万円

・区分B（各200万円）

代表研究者	個人/ グループ	研究主題	滞在先
名古屋大学宇宙地球環境 研究所 小坂 由紀子	個人	海水のネオジウム同位体を用いた東南極沿岸の 水塊の特性評価	デラウェア大学 （アメリカ）

区分B 200万円

4) 2022年度海外研究援助者

援助実施課題

・区分B（各200万円）

代表研究者	個人/ グループ	研究主題	滞在先
千葉大学大学院医学研究院 倉島 洋介	個人	バクテリアルトランスロケーシ ョンの抑制に関わる腸内細菌の 探索	カリフォルニア大学サン ディエゴ校（アメリカ）
大阪大学大学院工学研究科 片桐 健登	個人	ダイヤモンド-BC8 相転移のその 場観察：新たな炭素多形の探索	スタンフォード大学 （アメリカ）
東北大学大学院生命科学研究科 向井 康治朗	個人	ウイルスの細胞集団感染を実現 する分子機構の解析	国立衛生研究所(NIH) （アメリカ）
カロリンスカ研究所神経科学研究科 大畑 龍	個人	身体的自己を中心とした情動経 験の神経メカニズム	カロリンスカ研究所 （スウェーデン）
金沢大学理工研究域 大橋 政司	個人	新規遍歴電子物性を創成する f 電子系化合物の開拓	ポーランド科学アカデミ ー低温構造研究所 （ポーランド）
東京海洋大学海洋環境科学部門 大橋 良彦	個人	スバルバルフィヨルドの海洋 環境に氷河由来の淡水流出が与 える影響	スバルバル大学 （ノルウェー）
ゲッティンゲン大学医学センター/ 公益財団法人東京都医学総合研究所 樽谷 愛理	個人	クライオ電子線トモグラフィー 法を用いたシヌクレイノパチー 病態機構の解明	ゲッティンゲン大学医学 センター（ドイツ）



[事業報告]

区分B 総額1,400万円

援助延期課題

・区分A (各100万円)

代表研究者	個人/ グループ	研究主題	滞在先
名古屋大学大学院理学研究科 立原 研悟	グループ	超広域電波観測による銀河系分子ガス分布の解明	NANTEN2 電波望遠鏡 (チリ)

延期分 区分A 100万円

・区分B (各200万円)

代表研究者	個人/ グループ	研究主題	滞在先
物質・材料研究機構 齊藤 拓馬	個人	Ni 基単結晶超合金の引張りおよび圧縮クリープ特性の異方性と対称性	ケンブリッジ大学 (イギリス)

延期分 区分B 200万円

5) 2023年度海外研究援助採択者一覧表

・区分A (各100万円)

代表研究者	個人/ グループ	研究主題	滞在先
横浜国立大学理工学府 近藤 慎司	個人	イオン液体×高分子×リチウム塩のテーラーメイド型複合電解質の機能創出とリチウム金属二次電池の実現	ディーキン大学 (オーストラリア)
大阪大学量子情報・量子生命研究センター 竹森 那由多	個人	準結晶上の超伝導電流分布の理論的研究	パリ＝サクレ大学 (フランス)
東北大学大学院理学研究科 平野 智倫	個人	液体界面における誘電率の理論計算と和周波発生分光への応用	フランス高等師範学校 (フランス)
エクセター大学 城倉 圭	個人	有櫛動物クシクラゲを用いた原始的な視覚処理メカニズムの解明	ベルゲン大学 (ノルウェー)
京都大学大学院工学研究科 吉光 奈奈	個人	誘発地震を用いた前震波形の時空間変化の評価	マサチューセッツ工科大学 (アメリカ)
工学院大学教育推進機構 武藤 恭之	個人	円盤非軸対称構造から探る星・惑星形成の初期段階	ライデン天文台 (オランダ)
尾道市立大学経済情報学部 川口 俊宏	個人	輝線と吸収線を相補的に用いたブラックホールガス噴出流の高空間分解測定	国立天文台ハワイ観測所 (アメリカ)
東京都立大学理学部 岡田 泰和	個人	特異な繁殖戦略の起源：アジア・オセアニアのトゲオオハリアリの系統進化学	タイ国立科学博物館他 (タイ、ベトナム、フィリピン)

区分A 総額800万円

[事業報告]

・区分 B (各 200 万円)

代表研究者	個人/ グループ	研究主題	滞在先
慶應義塾大学医学部 今泉 研人	個人	オルガノイド/アセンブロイドを用いたヒト脳進化の研究	スタンフォード大学 (アメリカ)
金沢大学理工研究域 砂田 哲	個人	光ニューラルネットコンピューティング基盤の創成	FEMTO-ST インスティテュート (フランス)
ハーバード大学マサチューセッツ総合病院 岩崎 順博	個人	GNAS インプリンティングの制御と破綻の分子基盤解明	ハーバード大学マサチューセッツ総合病院 (アメリカ)
東京大学大学院農学生命科学研究科 板倉 拓海	個人	恐怖の減衰過程の背景にある神経・分子基盤の解明	カリフォルニア工科大学 (アメリカ)
マサチューセッツ工科大学 石川 智愛	個人	社会性行動を介して免疫応答の変化を誘導する神経回路基盤の解明	マサチューセッツ工科大学 (アメリカ)
スタンフォード大学 小澤 創	個人	沈み込み帯の地震サイクルシミュレーション：断層滑りと流体移動の相互作用	スタンフォード大学 (アメリカ)
東京大学理学系研究科 大矢 恵代	個人	クロマチン修飾 H3K4me1 がゲノム変異バイアスを引き起こす分子的仕組みの解明	カリフォルニア大学デイビス校 (アメリカ)
カリフォルニア大学バークレー校 大井 未来	個人	がんの治療に向けたキレート型分子の創製：細胞内銅イオンの定量と制御	カリフォルニア大学バークレー校 (アメリカ)

区分 B 総額 1,600 万円

6) 2022 年度長期間派遣交歓会 (2022 年 6 月 18 日 (土) オンライン開催) 発表者一覧  
成果発表会

主題	発表者
超高磁場機能的磁気共鳴画像法を用いたヒト脳活動の高分解能計測	電気通信大学大学院情報理工学研究科 宮脇 陽一
植物特異的な細胞分裂様式の分子的解明	国立遺伝学研究所 佐々木 武馬
対称性の破れに誘起されたトポロジカル磁性相の創成と異常伝導物性の開拓	東京大学大学院新領域創成科学研究科 車地 崇
咽頭と心臓は同じ発生起源に由来するのか？	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 足立 礼孝
骨髄異形成症候群の病初期におけるクローン進化の同定	日本医科大学 永田 安伸
1 細胞 RNA シークエンスによる炎症性皮膚疾患の新たな樹状細胞の同定	京都大学大学院医学研究科 中溝 聡